

1: 出席者

加藤^a・大西^b・能登・平林・大塚^c・内藤^c・勝間^{c, d}・新井^c・須田^c・合川^c・セルゲイ^c・吉田^c

(^a:委員長, ^b:議長, ^c:オブザーバー, ^d:書記)

2: 報告

- 4月からVBL-COEに新井氏とセルゲイ氏が採用され6人になった。(加藤)
- 核データの科研費が不採用であった。(加藤)
- 来年2月にNNDCのMcLane氏が来日する。(加藤)
- 年次報告書の締め切りを5月中旬にする。(能登)
- 新規サーバの設定がほぼ完成している。現サーバからの移行時期を検討している。(勝間)
- COEメンバーの今年度作業内容を考えた。(合川)

EXFOR 検索システム SPES 須田、合川

xtract 大塚、合川

JENDL 検索システム SPES-J 内藤、大塚、勝間

NRDF 検索システム DARPE セルゲイ、合川、須田

理論計算 勝間、新井

コーディング 全員

- 特会の年次報告を作成した。(加藤、大塚、須田、合川、内藤、勝間)
- EXFORに採録する荷電粒子反応の領域について、他のセンターへの提案を作成した。(大塚、加藤)
- 最近、他のセンターから送られてきたファイルに対してコメントをしている。(大塚)
- M1の学生がNRDFコーディング作業に加わった。グラフ読み取り作業を担当してもらう。(吉田)

3: 議論

- 2004年度管理運営委員メンバー**

加藤 委員長

大西 議長

能登・平林 年次報告

片山

千葉

岡部

青山 (助言委員になっていただくことを要請する)

オブザーバー

合川、新井、大塚、勝間、須田、セルゲイ、内藤、吉田。(可能な限り運営委員会に出席する。)

- 新規コード

以下のコードの新規作成・修正が提案され、承認された。

XSECTN-MAX	Cross section (upper limit)	H	
EMLSN	Emulsion	V	deleted
SBD	Silicon surface barrier detector	V	updated
XRAY	X rays	V	
HPGE	Hyperpure Germanium detector	V	
VYNS	85% CH ₂ CHCl and 15% CH ₃ CO ₂ CHCH ₂ films	V	
FBS/S	Few Body Systems, Supplement	V	
2JPNOSP	Radiation Centre of Osaka Prefecture, Sakai, Osaka	V	obsolete
2JPN AIS	National Inst. of Advanced Industrial Sci. and Tech. (AIST), Tsukuba	V	
2JPNJSR	Japan Synchrotron Radiation Res. Instit. (JASRI), Hyogo	V	
1/SR/PARTCL	1/sr/inc.particle	V	
DELTA-DN/DOMEGA	Error in dN/dOmega	H	
DN/DOMEGA	dN/dOmega	H	
DELTA-DN/DOMEGA/DE	Error in dN/dOmega/dE	H	

- Method について[ntx-wg 133] 現行で変更しない。
- レフェリー作業について
直接依頼する論文に加え、WG でもレフェリーを行なう。
現在担当していただいているレフェリー論文を一度回収し、再分配する。

4: 次回

2004年5月24日 18:30~

1: 出席者

加藤^a・大西^b・岡部・千葉・能登・片山・平林・深堀・大塚^c・内藤^c・新井^c・合川^c・セルゲイ^c・吉田^c・
須田^{c,d}

(^a:委員長, ^b:議長, ^c:オブザーバー, ^d:書記)

2: 報告

- D1800, D1803 のレフェリーが終了した。(片山)
- 核データの国際会議への出席を見送った。(加藤)
- 7月14日に特別会計のレポートを作成するためのミーティングが行なわれる。(加藤)
- 7月6日に深堀氏が核データに関する講義を行なう。(加藤)
- 単年度2000万円程度の予算に応募した結果、北大を通過した。(加藤)
- 勝間氏が7月1日から東工大へ移った。(加藤)
- E027, E028 を IAEA に送付した。(大塚)
- 新規サーバーの設定を行なった。(開発用、公開用)(合川)
- 年次報告書の原稿を修正中である。(内藤)
- RGM をウェブ上で計算、作図するシステムを作成した。(新井)
- NIAS(Nuclear Information Access System)の EXFOR 検索部分を作成した。(須田)
- DARPE を用いて NRDF のマスターファイルをチェックした。さらに、NRDF の現在のチェックシステムを利用してファイルのチェックを行なう予定である。(吉田・大塚・セルゲイ)

3: 議論

- 所属機関コードで空白は許されるのか(“UK “, “FR “など)
 - 今回は機関コードのみ空白を許可する。(例えば“2FR FR”とする)
 - H 型には空白を使わない。
- D1816 のレフェリー
 - DATA セクションに関する共通情報の括り出しを許すか。
 - ◇ ¥¥DATA,1[62 を NRDF の文法として新たに定義してはどうか今後検討する。
- NRDF チェックプログラムのデモンストレーション
 - 夏休み期間中に院生にチェックをしてもらう。

4: 次回

2004年8月30日 18:30~

1: 出席者

加藤^a・大西^b・岡部・千葉・能登・片山・平林・内藤^c・新井^c・合川^c・セルゲイ^c・吉田^c・須田^{c,d}
(^a:委員長, ^b:議長, ^c:オブザーバー, ^d:書記)

2: 報告

- 9月6日に東工大にて特別会計の全体会議があった。(加藤)
- 9月10日に総合核データ利用システムの検討会議があり、今後の計画などを議論した。(加藤)
- 9月26日からND2004に大塚氏が参加し、ポスター発表を行なう予定である。(加藤)
- 10月4~6日にNDセンター会議があり、大西氏が参加する予定である。(加藤)
- 合川・新井両氏が10月からブリュッセル自由大学に赴任する。(加藤)
- COEのメンバーに簗口氏が加わった。(加藤)
- NRDF年次報告書が出版された。(能登)
- NRDFでの数値テーブル欠損および重複のチェックが終了し、問題のあるファイルは1890件のデータのうち100件以上であった。(セルゲイ)
- SPES-Jの改良が進み、JENDL検索システムとして公開版に近づいた。(内藤)
- 新設したサーバーがダウンしたが、再設定した。(合川)
- ENIASを作成した。(合川)
- RGMのシステムをJCPRGのホームページで公開した。(新井)
- SPESを改良し、EXFOR検索システムとしてほぼ完成した。(須田)
- NEA-DBのMark Kellett氏の後任としてHans Henriksson氏(スウェーデン)が8月半ばに着任した。氏はCINDA関係で今後JCPRGと関係を持つことになる。(大塚)
- データベース科研費の応募者説明会が10月14日16:00から東京で行なわれる。(大塚)
- EXFOR System Manualが更新され、ウェブに掲載された。(大塚)
- LEXFORのdraftが届いた。(大塚)

3: 議論

- 核データの活動の物理学会誌への寄稿について
 - 寄稿に関しては決定とする。
 - SPES、SPES-Jの公開に関して井頭氏に相談する。(加藤)
 - DARPEは全面公開する。
- 開発ツールのntjでの公開について
 - 複数のユーザーからのアクセスに対応できるかどうかを確認したうえで公開する。
- JCPRGでIAEAの作業に関わる年間の従事者数について
 - 1.5人とする。
- EXFORの高エネルギーファイルに対するエントリー番号の割り当てについて

- 入射粒子が $A \geq 1$ であれば従来通り E シリーズにコンパイル、反陽子・中間子入射に関しては新しい ID(例えば J)にコンパイルすることが提案されている。
 - ✧ ファイルをコンパイルして残しておくことが重要である。
- SPES-J、RGM、ENIAS のデモンストレーションが行なわれた。

4: 次回

2004 年 10 月 18 日 18:30~

1: 出席者

加藤^a・大西^b・岡部・千葉・能登・片山・平林・内藤^c・須田^{c,d}

(^a:委員長, ^b:議長, ^c:オブザーバー, ^d:書記)

2: 報告

- NRDC ミーティングへ参加した。(大西・大塚)
 - Jシリーズ(中間子、反陽子入射)を開始する。
 - JCPRG からの提案の多くが採択された。
- 辞書 wg からの報告があった。(資料参照)(須田)
- 科研費の書類が一通りできている。(加藤・大塚)

3: 議論

- 新規コードについて
 - ワーキンググループから提案があったコードについて、すべて承認する。(wg 資料参照)
- 中間報告のプレゼンテーションについて
 - 参加者で検討し、図が見づらいので線を太くすることとした。

4: 次回

2004年12月6日 18:30~

1: 出席者

加藤^a・大西^b・千葉・能登・片山・大塚^c・セルゲイ^c・簀口^c・須田^{c,d}

(^a:委員長, ^b:議長, ^c:オブザーバー, ^d:書記)

2: 報告

- McLane 氏が2月8日に来札する予定である。(加藤)
 - セミナーや学生の教育を行なってもらいたい。
- SPES の改良を行なった。(須田)
 - Daniel Archive の検索速度が大幅に向上した。
 - EXFOR のデータに関して、ENDF quantity でも検索が行なえるようになった。
- 新井氏によるグラフ読み取りシステム(GSYS)の改良版をテストした。(簀口)
 - 精度は3桁程度で、操作性も向上した。
 - グラフ読み取りの製品版と比較しても十分に勝る性能を誇る。
- EXFOR のファイルを3編 IAEA に送信した。
 - エントリー3件、新規論文48編
- DARPE に関するプログレスレポートを原研に提出した。(セルゲイ)
- DARPE のアクセス解析を行なった。(セルゲイ)
 - 2004年1月から951件のアクセスがある。
 - 世界各国からのアクセスがある。
 - DARPE のロゴ(リンク)をJCPRGのトップページに配置してはどうか。

3: 議論

- McLane 氏来札の際の作業について
 - 過去に採録されたNRDFのアメリカで行なわれた実験データのうち、EXFORへ未変換のものを
変換する。
 - HENDEL の世界の機関への配信のために英語のマニュアルを作成する。
- 新規コードについて
 - ABST: 再検討(展開形の説明が不十分)
 - ABSORP: コードの使い方に関するコメントを付加する。
 - SISD or SI-STRP: SI-STRP を採用とする。
- 文献チェックについて
 - 採録された論文のリファレンスをすべて登録し、未採録論文のデータベースを作成するという提
案があった。
 - 試験的に実施してみる事となった。(実行時間、該当数、該当率を測定)
- サーバーの現状と運用について

- 今後の議論に持ち越すこととする。
- S型辞書について
 - 特に廃止はしない。

4: 次回

2005年1月24日 18:30~

1: 出席者

加藤^a・大西^b・能登・平林・吉田^c・セルゲイ^c・須田^{c,d}

(^a:委員長, ^b:議長, ^c:オブザーバー, ^d:書記)

2: 報告

- 特別会計中間ヒアリングの審査を無事終了した。(加藤)
- 1月27日に東工大で特会のミーティングが開かれる予定である。(加藤)
- ワーキンググループの議事録の報告。(能登)
- GSYSに関するProgress Reportの原稿を原研に提出した。(簀口、代理報告：吉田)
 - 新井氏がGSYSの改良を進めている。
 - 論文として学術雑誌に投稿することを検討している。
- CINDAへ登録する論文(2004年7月から12月まで)が9編となった。(セルゲイ)
- 天文データベースに関するProgress Reportの原稿を原研に提出した。(須田)

3: 議論

- GSYSの公開について
 - GPLに従って公開・配布を行なうこととした。
- 新規コードについて
 - FM**6/MEV：承認とする。
- McLane氏来札時のスケジュールについて
 - シンポジウムを開催し、コーディングに関する講演をしてもらう。
 - 2月14日(月)を開催予定日とする。
- 年次報告の内容と筆者に関する案

内容	著者
- 巻頭言	能登
- McLane Symposiumの報告	
- ND2004の報告	大塚
- DARPEの発展	セルゲイ
- SPESの開発	須田
- SPES-Jの開発	須田、内藤
- GSYSの開発	新井、簀口、大塚、内藤
- NRDFからEXFORへの変換状況について	大塚、吉田
- NTXワーキンググループ報告書	能登、加藤、大塚
- CINDAの報告	セルゲイ、大塚
- IAEA annual meeting 報告	大西、大塚

- 入力データ報告

- 議事録

原稿締め切り : 3/23

印刷部数 : 20 数部

4: 次回

2005 年 2 月 28 日 18:30~

1: 出席者

加藤^a・平林^b・能登・片山・大塚^c・セルゲイ^c・須田^{c,d}

(^a:委員長, ^b:議長, ^c:オブザーバー, ^d:書記)

2: 報告

- COE の研究員を現在の 3 名に加えて一人追加するよう申請した。(加藤)
- 北大に核データの活動に関する H18 年度概算要求を提出した。(加藤)
 - 助手 1 名のポストを申請した。
 - 期間は 5 年間である。
- EXFOR ファイル E029(41 編), E030(25 編), J001(5 編)の最終版を IAEA に送信した。(大塚)
- CINDA ファイル SAP02 (9 編) を NEA に送信した。(大塚)
- ワーキンググループの議事録の報告。内容に関してはレポート (ntx-wg 2?-29) を参照。(能登)

3: 議論

- 1 核分裂あたり放出粒子数を表現する単位について
 - “1/FISSN”か“PARTCL/FISSN”か？
 - 単位と次元の整合性を確認する必要がある。
 - とともにワーキンググループで継続審議とする。
- 新規コードについて
 - 継続審議とする。

4: 次回

2005 年 4 月 11 日 18:30~